

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2017年5月調査結果-

## 調査概要

- 調査期間 2017年5月9日～30日
- 調査対象 200社
- 回答企業 111社
- 回収率 55.5%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの企業割合) - (減少・悪化などの企業割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 従業員：(不足) - (過剰)

## 旭川市概況

※全産業の5月の状況を見ると業況DIは、前月より4.74ポイント回復の▲8.1となった。

2014年4月以来38ヶ月連続マイナス水準で推移している。

業種別では、建設業、製造業、卸売業、サービス業の4業種において回復した。

※向こう3か月の先行き見通し業況DIは▲5.4と当月に比べ2.7ポイント回復を見込んでいる。

業種別でみると、建設業、卸売業で回復が見込まれている。

## 旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2016年 12月	2017年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 2017年6月～8月
業況	▲11.8	▲17.4	▲10.6	▲17.0	▲12.8	▲8.1	▲5.4
売上	▲15.7	▲14.3	▲13.5	▲9.0	▲0.9	1.8	1.8
採算	▲9.8	▲8.2	▲10.6	▲19.0	▲7.3	▲6.3	▲4.5
仕入単価	▲25.5	▲29.6	▲26.9	▲32.0	▲32.1	▲33.3	▲38.7
従業員	25.5	30.6	24.1	24.0	23.0	27.9	29.7
資金繰り	▲6.8	▲7.2	▲7.7	▲10.0	▲10.1	3.6	▲3.6

## 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2016年 12月	2017年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 2017年6月～8月
建設	0.0	▲9.1	▲4.0	▲8.7	0.0	7.4	22.2
製造	0.0	0.0	4.1	7.7	7.7	8.0	0.0
卸売	▲36.8	▲15.0	▲33.3	▲35.0	▲29.2	▲25.0	▲20.8
小売	▲43.7	▲50.0	▲17.6	▲35.7	▲11.8	▲18.7	▲18.8
サービス	11.7	▲25.0	▲5.9	▲29.4	▲35.0	▲21.0	▲21.0

## 今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繁忙感が増してきており、今後資機材の確保と価格動向が懸念される。人手不足は相変わらずであるが災害復旧関連の発注に期待している。（総合工事）</li> <li>・一般住宅の受注が好調に推移しており、資金繰りも安定している。（建築）</li> <li>・従業員（技術者）・作業員不足のため、受注したくても受けられない状況が続いている。下請業者も人材不足のため、工期に遅れが生じている。（総合工事）</li> <li>・賃金についてはベースアップを実施した。新卒社員については予定通り採用できた。（総合工事）</li> <li>・技術者（建築・土木）が不足してきた。（総合工事）</li> <li>・新規事業分野の採算性を洗いなおしている。続けるか止めるか検討中。</li> <li>・公共事業は災害復旧が先行しているので環境に係わる業界は仕事が非常にすくない。（設備その他）</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害関連を中心に公共投資が堅調。民間の建築も増加傾向にあり、相応の需要が徐々に増加している。（金属窯業鉄工）</li> <li>・紙媒体の販促物の減少傾向は変わらない。紙媒体以外の分野にも取り組んでいるが、紙媒体減少のカバーには至らない。仕入原価については、今後用紙及び運賃について値上げを覚悟せざるを得ない。売上の減少を加味すると損益上では厳しい見通しである。（印刷出版）</li> <li>・仕入資材費の上昇が一巡、売り先への価格転嫁も概ね終了。仕入資材の価格が現状で落ち着くかはまだ不安要素（金属窯業鉄工）</li> <li>・国内需要は徐々に回復の兆しあり。海外受注は年初めより好調が続く。採用面では会社説明会が各地でスタートしている。（家具木材）</li> <li>・相変わらず為替相場の先行きが不透明であること（家具木材）</li> </ul>
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本州リードの面白い商品で今月売上がアップ。一時的なものではあるが、良い結果で今月締められそう（その他）</li> <li>・個人消費減少傾向で飲食店利用数が減っている。仕入価格は上昇傾向で生産が減少。国内外の輸送運賃上昇で価格上昇。根気良くクライアントに伝えたが承りたかかないと弊社の責務がはたせなくなる。（その他）</li> <li>・昨年度と同等の予想である。（機械鋼材）</li> <li>・決算期を迎えたが、赤字をどれだけ小さく出来るか（機械鋼材）</li> <li>・灯油他、石油製品の仕入価格は下がり傾向ではあるが、大幅な動きはないと思われる。（その他）</li> <li>・売上・利益とも前年同比変化なし。欠員により従業員補充に苦慮している。（機械鋼材）</li> </ul>
小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GW 期間中はレジャーに支出され、衣料品店舗には中々足を運んでもらえないが、帰省する顧客がゆっくり販売員と会話を楽しみながらお買い上げされるので、対応を心がけながら前年の売上を落とさぬよう努力している。（衣料品）</li> <li>・地域経済・個人消費が激減している。（その他）</li> <li>・人手不足。販売単価の下落（その他）</li> <li>・修繕費の増加（食料品）</li> <li>・従業員不足が続いている。（その他）</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際線定期便休止による外国人旅行者減少の懸念があったが、国内需要が活発に動き増収にいたる（ホテル旅館）</li> <li>・旭川以外は売り上げ増。特にトマム方面は新規ホテル、観光客増で前年比倍増。札幌方面も前年比 30% 増。ホテルリネは伸びている。病院寝具は安定、一般クリーニングは前年比横ばい（理美容クリーニング）</li> <li>・事業の性質上、収入が天候に左右されやすく、経費圧迫が追いついてこない。（運送）</li> <li>・GW 後の落ち込みは相当ある。採算が悪化しており（原材料の高騰により）値上げは必至（飲食）</li> <li>・個人消費が低迷している。車離れが多く修理・入庫が減少。車輛販売も減少（整備）</li> <li>・昨年度発生した、台風被害に伴う復旧関連業務が多く発注されている。（その他）</li> <li>・新卒者・アシスタント育成中のため過剰人材。早期育成中（理美容クリーニング）</li> <li>・新卒採用困難で不可に近い（整備業）</li> <li>・人手不足が悩みの種。募集をしても問合せすら来ない状況（飲食）</li> </ul>

## 旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI2.0 ポイント回復、採算 DI11.9 ポイント回復、仕入単価 DI8.9 ポイント悪化、資金 DI21.4 ポイント回復、従業員 DI4.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 7.4 ポイント回復となった。業種別では総合工事 2 ポイント、設備その他 11 ポイント、建築業 7 ポイント回復となった。一般住宅の受注が好調に推移しており、資金繰りも安定との声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI3.4 ポイント悪化、採算 DI12.0 ポイント回復、仕入単価 DI1.5 ポイント悪化、資金 DI15.7 ポイント回復、従業員 DI7.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 0.3 ポイント回復となった。業種別では、印刷出版 40 ポイント悪化、食料品 50 ポイント、家具木材 8 ポイント、金属窯業他 5 ポイント回復となった。紙媒体販促物の減少傾向は変わらず、紙媒体以外の分野の取り組みも減少をカバーするに至らず。今後用紙・運賃を値上げせざるを得ないとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI4.2 ポイント回復、採算 DI4.2 ポイント悪化、仕入単価 DI8.4 ポイント回復、資金 DI25.0 ポイント回復、従業員 DI20.7 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 4.2 ポイント回復となった。業種別では、繊維・衣服等 67 ポイント悪化、機械鋼材・その他で横ばい、食料品 26 ポイント回復となった。個人消費減少傾向で飲食店利用客数減。仕入価格は上昇傾向で生産減少。国内外の輸送運賃も上昇で価格上昇との声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI30.9 ポイント悪化、採算 DI25.0 ポイント悪化、仕入単価 DI11.0 ポイント回復、資金 DI13.0 ポイント悪化、従業員 DI15.8 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 6.9 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 45 ポイント、その他 25 ポイント回復、衣料品横ばい、自動車 50 ポイント悪化となった。地域経済・個人消費が激減しているとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI35.3 ポイント回復、採算 DI1.0 ポイント悪化、仕入単価 DI11.6 ポイント悪化、資金 DI4.2 ポイント悪化、従業員 DI17.1 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 14.0 ポイント回復となった。業種別では運送 50 ポイント悪化、その他、飲食、整備業で横ばい理美容クリーニング 117 ポイント、ホテル 25 ポイント回復となった。国際線定期便休止による外国人旅行客減少の懸念があったが、国内需要が活発に動き増収に至るとの声も寄せられている。</p>